

# 中国語の方向補語“起来”“下(来/去)”に関する一考察

## —認知言語学の観点から—

On the Directional Complements “*qilai*” “*xia(lai/qu)*” in Chinese:  
From a Cognitive Linguistic Perspective

韓涛<sup>†</sup>

Han Tao

**Abstract** In this paper, the linguistic phenomena that why the Chinese directional complement “*qi lai*” tends to co-occur with positive adjectives, and “*xia(lai/qu)*” another directional complement tends to co-occur with negative adjectives were discussed from a cognitive linguistic perspective. Based on the research, We arrived at the conclusion that the co-occurrence of [positive adjective + “*qi lai*”] and [negative adjective + “*xia (lai/qu)*”] is not arbitrary, but motivated by human cognition and culture.

### 1. はじめに

次の例(1)(2)が示しているように、中国語の方向補語“起来”“下(来/去)”は、それぞれ“热闹”[にぎやかである]、“好”[よい]、“尖厉”[鋭い]、“明亮”[明るく]や“暗”[暗い]、“黑”[暗い]、“慢”[遅い]、“冷静”[冷静である]、“低”[低い]などの形容詞と共起することが可能である。

- (1) a. 小小的公寓在黄昏的暮色中骤然热闹起来。  
[小さなアパートは夕暮れの中で突然にぎやかに始まった。]
- b. 现在黑暗已经过去，光明已经来到，一切都会好起来的。  
[暗黒の時代はもう過ぎ去っており、明るい時代が既に到来している。これから全てがきっとよくなるのだ。]
- c. 老奶奶声音一下子尖厉起来，明显地带出了怒气。  
[おばあさんの声が急に高くなった。明らかに怒りを帯びていた。]
- d. 忽然又像回光返照一般地明亮起来，但接着又

暗下去。

[突然夕日の照り返しのように明るくなり、すぐにまた暗くなった。]

- (2) a. 天渐渐黑下来，风越刮越烈。  
[空が徐々に暗くなり、風がますます強くなった。]
- b. 火车还没有进站，徐徐慢下来……  
[列車はまだホームに入らないうちに、徐々にスピードを落とし始め…]
- c. 今天你该冷静下来了，我们好好地谈一谈。  
[今日でもう落ち着いたはずだね。ゆっくり話し合しましょう。]
- d. 嫂嫂看了他一眼，哭声低了下去。  
[兄嫁が彼をチラッと見ると泣き声が小さくなった。]

(例(1)(2)は刘月华主编 1998 下線及び日本語訳は引用者)

例えば例(1d)では〈明〉を表す“明亮”という形容詞は“起来”と共起しており、〈暗〉を表す“暗”は“下去”と共起している。しかしながら、次の例(3)にみられるように、“明亮”と“暗”の2つは互いに置き換えると文が成立しなくなる。

<sup>†</sup> 愛知工業大学 基礎教育センター (豊田市)

- (3) \*忽然又像回光返照一般地明亮下去(→明亮起来), 但接着又暗起来(→暗下去)。

このように、この種の対応づけは決して恣意的なものではなく、何らかの動機づけを有するものであると考えられる。しかしそれにも関わらず、従来の研究ではこの種の言語現象に関して記述のレベルにとどまっているものが多い。例えば、

在一部分表示性质的形容词中, 有正向和负向的区别。“大”、“长”“重”、“粗”、“快”、“高”、“厚”、“贵”、“亮”等为正向, “小”、“短”、“轻”、“细”、“慢”、“低”、“薄”、“贱”、“暗”等为负向。通常“起来”更多的是与正向形容词结合。在本书所用的语料中, 正向的(包括无方向区别的)形容词与“起来”结合出现了 358 例, 与负向形容词结合出现了 56 例。所以可以说“起来”主要表示由负向向正向, 由静态向动态的变化。

[属性を表す一部の形容詞の中には、プラスを表すものとマイナスを表すものがある。例えば「大きい」「長い」「重い」「太い」「速い」「高い」「厚い」「(値段が)高い」「明るい」などはプラスを表す形容詞であり、「小さい」「短い」「軽い」「細い」「遅い」「低い」「薄い」「(値段が)安い」「暗い」などはマイナスを表す形容詞である。通常“起来”は多くの場合、プラスを表す形容詞と共起する。本書で使用しているコーパスの中に、“起来”がプラスの(中立のものを含む)形容詞と共起した例は 358 例であるのに対し、マイナスの形容詞と共起した例は 56 例だった。ここから“起来”は主にマイナスからプラスへ、静態から動態への変化を表すといえる。]

(刘月华 1998 : 368-369 日本語訳は引用者)

可以与“下来”结合的都是负向形容词, 形容词与“下来”结合, 表示由动态转为静态, 或由正向向负向变化。

[“下来”と共起できるのは全てマイナスの形容詞である。形容詞と“下来”の組み合わせは動態から静態へ、或いはプラスからマイナスへの変化を表す。]

(刘月华 1998 : 176 日本語訳は引用者)

上の 2 つの引用からわかるように、刘月华 1998 には“~起来”“~下(来/去)”は〈明暗〉や〈動静〉を表す表現と共起することができるという記述はみられるものの、なぜ“起来”が“正向形容詞”と、“~下(来/去)”が“负向形容詞”と共起するのか、その動機づけについては明らかにしていない<sup>1</sup>。

以上を踏まえて本稿では認知言語学の観点からこの問題を解決してみる。具体的には、ケーススタディーとして“~起来”“~下(来/去)”が〈明暗〉〈動静〉〈強弱〉の意味を有する形容詞(ただし一部は動詞)とそれぞれ共起している 3 つのケースについて分析する。

## 2. メタファーと整列対応

本稿が依拠する認知言語学の理論的な枠組みは 2 つある。1 つは、Lakoff and Johnson 1980 などによって確立された認知メタファー理論 (the cognitive theory of metaphor) であり、もう 1 つは、鍋島 2003 によって提案された整列対応である。以下、具体的な分析に入る前に、まず 2 つの概念についてそれぞれ確認しておく。

メタファーとは概略的にいえば、ある概念領域を用いて別の概念領域を理解するという認知プロセスのことである。例えば次の例 (4) が示しているように、英語では〈幸〉は〈上〉を通して、〈不幸〉は〈下〉を通してそれぞれ理解される。

- (4) a. I'm feeling up.  
[気分は上々だ。]  
b. You're in high spirits.  
[上機嫌だね。]  
c. I'm feeling down.  
[気持ちが沈んでいる。]  
d. I'm depressed.  
[落胆している。]

(Lakoff and Johnson 1980 日本語訳は渡部 1986)

通常〈喜び〉という感情は「万歳」や「飛び上がる」といった〈上向き〉の身体行為を伴うのに対し、〈悲しみ〉という感情は「うなだれる」や「横たわる」といった〈下向き〉の身体行為を伴う。例 (4) で〈幸〉は〈上〉という概念と、〈不幸〉は〈下〉という概念とそれぞれ対応しているのはこのためである。換言すれば、概念レベルにおいて〈幸〉という抽象的概念が〈上〉という方向と、〈不幸〉という抽象的概念が〈下〉という方向とそれぞれ対応しているのは、この種の身体的経験によって動機づけされているためだと考えられる。

また、ある特定の感情とその感情によって引き起こされる生理反応という現象は普遍性を有すると考えられるため、《幸は上》《不幸は下》というメタファーは英語以外の言語にも認められるといえる。例えば次の例 (5) に示される中国語の成立の可否は、いずれもこのメタファーと密接に関係している。

- (5) a. 高兴得蹦起来  
[うれしくて飛び上がる]  
b. \*高兴得垂下头  
c. 沮丧得垂下头  
[悲しくてうなだれる]  
d. \*沮丧得蹦起来

さらに、次の例 (6) (7) が示しているように、英語では〈幸〉—〈不幸〉のほか、〈多〉—〈少〉や〈支配〉—〈被支配〉といった概念もまた〈上〉—〈下〉に基づいて理解される。

- (6) a. My income *rose* last year.  
[私の収入は昨年上昇 (=増加) した。]  
b. His income *fell* last year.  
[彼の収入は昨年落ちた。]  
(7) a. I have control *over* her.  
[私は彼女を監督している。]  
b. He is *under* my control.  
[彼は私の支配下にある。]

(例 (6) (7) は Lakoff and Johnson 1980  
日本語訳は渡部 1986)

このように、〈上下〉によって特徴づけられている概念は両極に対立するという特徴をもっている。鍋島 2003 ではこの種の特徴に基づいて整列対応 (Alignment/アラインメント) という概念を提案している<sup>2</sup>。

Alignment という名詞形の派生の元となる動詞 Align とは、「線にする」ことであるが、本稿では、2つ以上の軸/線条構造がどのように対応づけられるかを言語との関わりから論じ、この対応づけをアラインメントと呼ぶ…

(鍋島 2003 : 44)

例えば「遠近」の例でいうとある特定の視点を選択した認知主体 (つまり観察者) にとって、比較的遠くにあるものは近くにあるものに比べ、大きさの面や濃淡の面ではそれぞれ下記のような特徴をもつ (図 1 参照)。

遠近	大きさ	濃淡	肌理 (きめ)	配置	移動	移動速度
遠い	小	薄	密	上	小	遅
近い	大	濃	粗	下	大	速

【図 1】 遠近と視覚の整列対応 (鍋島 2009)

これを先みた〈上下〉のメタファーに適用するとおおよそ次の図 2 のようになる。

上	幸	多	支配
下	不幸	少	被支配

【図 2】 〈上下〉と抽象概念の整列対応

ただし注意しなければならないのは、同じく整列対応の具体例を示す図 1 と図 2 には違いがみられるということである。つまり、図 1 が示す「遠近」のケースでは、「遠近」と整列対応をなす諸概念の間にもある種の対応関係がみられる。しかしこの点は〈上下〉と整列対応をなす諸概念、例えば〈幸・不幸〉〈多・少〉〈支配・被支配〉の間には (直接) 認められない。

### 3. 分析

本節では第 2 節でみたメタファーと整列対応の概念を援用しながら、〈明暗〉〈動静〉〈強弱〉という 3 つのケースに分けて、なぜ“起来”がいわゆる“正向形容词”と、“～下 (来/去)”がいわゆる“負向形容词”と共起するのかを分析していく。

#### 3・1 〈明暗〉のケース

まず〈明暗〉と“～起来”“～下 (来/去)”との共起関係及びその動機づけに関する考察に入る。

次の例 (8) (9) が示すように、〈明〉を表す“明亮”と“亮”はそれぞれ“起来”と共起し、〈暗〉を表す“昏暗”と“暗”はそれぞれ“下去”と共起している。

- (8) 天一点一点地昏暗下去，然后又一点一点地明亮起来。（北京大学 CCL 语料库。以降、CCL）  
[空が少しずつ暗くなり、それからまた少しずつ明るくなった。]  
(9) 是一个不大宁静的夜晚，村子里正在忙碌地磨面、碾米，路上又开始出现支前的队伍，牛车轂轂颠颠地走在山道上，吸烟的火光在纷纷人流里闪烁。象是藏在浮云后面的星星，一刻儿亮起来，一刻儿又暗下去。

(吴强《红日》)

[あまり静かな夜ではなかった。村では人々があくせくと粉をひいたり、精米したりしている中で、道ではまた前線を支援する部隊が現れた。牛車が小刻みに揺れながら山道を登り、煙草の火が雑多な人波の中でちらちらする。まるで浮雲の後に隠れている星のようなもので、しばらく明るくなったらまた暗くなる。]

また、次の例 (8) (9) の一部である例 (10) (11) はともに非文であり、〈暗〉を表す表現は“起来”と、〈明〉

を表す表現は“下去”とそれぞれ共起しない。

- (10) \*天一点一点地昏暗起来 (→昏暗下去), 然后又一点一点地明亮下去 (→明亮起来)。  
 (11) \*象是藏在浮云后面的星星, 一刻儿亮下去 (→亮起来), 一刻儿又暗起来 (→暗下去)。

以上のことを踏まえると、中国語には《明は上》《暗は下》というメタファーが存在していると考えられる。しかしなぜ中国語では〈明〉は〈上〉として、〈暗〉は〈下〉としてそれぞれ概念化されるのであろうか、換言すれば《明は上》《暗は下》のメタファー基盤は何であるかという疑問がある。ここでは2節で紹介した整列対応の概念を援用し、説明してみる。

まず水の中で軽いものは浮くが、比重の重いものは沈むという百科事典的な知識が示すように、概念レベルにおいて〈軽〉と〈上〉、〈重〉と〈下〉がある種の共起関係を結ばれていることがわかる。このことは次の例(12)(13)の成立の可否にも如実に反映されている。

- (12) a. 石子沉下去了  
 [小石が沈んでいった]  
 b. \*石子沉起来了  
 (13) a. 天沉下来了  
 [空が曇ってきた]  
 b. \*天沉起来了

次に、例えば色彩の心理効果でいえば、白のような明度の高い色は人に軽いという印象を与えるが、黒のような明度の低い色をみると人が重苦しく感じる。

色の中には次の様な効果を持つ色があります。緊張する色。リラックスする色。暖かく感じる色。寒く感じる色。重く感じる色。軽く感じる色。大きく見える色。小さく見える色。笑いを誘う色。食欲を誘う色、時間のたつのが遅く感じる色など、さまざまな色があるのです。(中略) 黒は重く感じ、白は軽く感じます。黒は白の約1.8倍の重さ。(心理的に)に感じるといわれています。(下線は引用者)

<http://www4.osk.3web.ne.jp/~love/needs/hanbai4.htm>

上の引用は色彩のもつ心理効果について述べたものである。ここからもわかるように、〈明〉〈暗〉は概念レベルにおいて〈軽〉〈重〉とそれぞれ対応している。

以上のことを図式化すると次の図3となる。

上	明	軽
下	暗	重

【図3】 〈上下〉と〈明暗〉〈軽重〉の整列対応

図3が示しているように、〈明暗〉と〈軽重〉は〈上下〉を軸に整列対応を形成している。このような整列対応を形成していることから、なぜ〈暗〉を表す表現が“起来”と、〈明〉を表す表現が“下去”とそれぞれ共起しないかは自明なことであろう<sup>3</sup>。

### 3・2 〈動静〉のケース

次の例(14)は“~起来”“~下来”がそれぞれ“开”“停”のような〈動〉〈静〉を表す表現と共起するケースである。

- (14) a. 汽车轰地开起来, 黄省三的嘶喊和他扑俯在地的身影, 被甩在后面。(CCL)  
 [車がゴーと動き出した。黄省三の叫び声と地面に倒れた姿が置き去りにされた。]  
 b. 一旦生产线上出现故障, 整条生产线都必须停下来  
<http://www.doc88.com/p-999318461773.html>  
 [いったん生産ラインで問題が発生すれば、ライン全体を止めなければならない]

そして次の例(15a)(15b)が示すように、〈動〉を表す“开”は“~下来”と、〈静〉を表す“停”は“~起来”とそれぞれ共起することができない。

- (15) a. \*汽车轰地开下来 (→开起来), 黄省三的嘶喊和他扑俯在地的身影, 被甩在后面。  
 b. \*一旦生产线上出现问题, 整条生产线都必须停下来 (→停下来)

また“开”“停”以外に、〈動〉が“~起来”と共起し、〈静〉が“~下来”と共起するバリエーションの中には、次の例(16)が表す“兴奋”“冷静”のケースや、例(17)が表す“嚷”“安静”のようなケースもみられる。

- (16) a. 看见有吃的, 王东方兴奋起来了, 拿出一瓶雷司令白葡萄酒。(CCL)  
 [食べものがあるのを見て王東方はテンションが上がって、Rieslingのワインを1本取り出した。]  
 b. 但, 杜春花还是很快冷静下来, 她理解丈夫

此时的心情，她决心用真诚来换得丈夫的理解。（CCL）

[しかし、杜春花はやはりすぐに冷静になった。彼女は夫の今の心情が分かっており、夫の理解を得るために誠意を尽くすと決心した。]

- (17) a. “呵哨，林老师，是你哟！”她大声地嚷起来  
(CCL)

[「あら、林先生、あなたですね」と彼女が大声で叫んだ]

- b. 傍晚六点整，喧闹的大厅里突然安静下来，人们把眼光投向走廊侧面的小门。（CCL）  
[夕方六時ちょうど、がやがやと騒がしいホールが突然静かになった。人々は視線を回廊の側の小さなドアに向けた。]

例(14)の“开”“停”が〈速度〉の〈動静〉を表しているのであれば、例(16)(17)はそれぞれ〈感情〉的な〈動静〉と〈音〉の〈動静〉を表しているといえる。以下、中国語では〈動〉を表す表現が“～起来”と、〈静〉を表す表現が“～下来”と共起する理由について、この3つの特殊なケースを検討することを通してみる。

一般に我々は興奮すると血圧が上がったり、体温が上昇したりするが、冷静になると血圧や体温が下がる。このことは「感情がたかぶる」と「落ち着いている」という“兴奋”“冷静”の日本語訳からも確認することができる。このように、感情的な〈動〉は〈上〉という概念と、感情的な〈静〉は〈下〉という概念とそれぞれ密接な関係、厳密に言えばメトニミー的な関係で結ばれている。例(16)では“兴奋”は“～起来”と、“冷静”は“～下来”とそれぞれ共起しているのはこのためであると考えられる。

これに対し、例(14)の“开”という動作は停止状態から加速していくことを、“停”という動作は停止状態に至ることをそれぞれ含意しているため、〈速度〉に関わる〈動静〉は、〈多少〉という概念と密接に関係しているといえる(例(18a)参照)。

- (18) a. 把速度从时速 40 公里提升到时速 80 公里  
[速度を時速 40 キロから時速 80 キロまで引き上げる]  
b. 把声音从 40 分贝提升到 80 分贝  
[音を 40 デシベルから 80 デシベルまで引き上げる]

また上の例(18b)が示しているように、同様のことは、〈音〉の〈動静〉を表す“嚷”“安静”についてもいえる。

第2節では英語には《多は上》《少は下》というメタファーが存在すると述べたが(例(6)参照)、例(18)の“提升”[引き上げる]という表現が示すように、同様のメタファーが中国語にも存在している。例(18)以外にさらに、以下のような《多は上》《少は下》のメタファー表現が挙げられる。

- (19) a. 物价上涨  
[物価が上がる]  
b. 物价下跌  
[物価が下がる]  
c. 把温度调高  
[温度を上げる]  
d. 把温度调低  
[温度を下げる]

ここからわかるように、英語と同様、中国語でも〈多少〉という概念は〈上下〉を通してメタファー的に理解される。そして上で述べた〈速度〉や〈音〉に関わる〈動静〉は〈多少〉に基づいて理解されるという事実と併せて考えれば、どうして例(14)の“开”“停”や、例(17)の“嚷”“安静”がそれぞれ“～起来”“～下来”と共起しているかが合理的に説明可能であろう。

### 3・3 〈強弱〉のケース

これまで検討してきた〈明暗〉〈動静〉以外に、“～起来”“～下(来/去)”と共起しうる表現の中には次の例(20)(21)が示すように、〈強弱〉を表すケースもみられる。

- (20) a. 虽然身在海外，他和郭女士热切希望祖国强大起来 (CCL)  
[海外にいるにも関わらず、彼と郭女史は心から祖国に強くなってほしいと願っている]  
b. 碰到困难就软下来，那还行？  
(中日辞典(第2版)小学館)  
[困難にぶつかるのとたちまち弱腰になるようではだめじゃないか。]  
(21) a. 你要是太软了，对方就会硬起来  
(中日辞典(第2版)小学館)  
[君があまり弱腰だと、相手は強く出るだろう]  
b. 罗维民话音依旧很硬，但心里早已软了下来  
(CCL)

[羅維民の声は相変わらず力強いが、心の中ではとっくに弱ってしまった]

例 (20a) (21a) では〈強〉を表す“强大”と“硬”は“～起来”と共起しており、例 (20b) や (21b) では〈弱〉を表す“软”は“～下来”と共起している。これは、概念レベルでは〈強〉は〈上〉と対応し、〈弱〉は〈下〉と対応していることの傍証となりうる。また、次の例 (22a) (22b) がいずれも非文であることから、この種の対応はこれまでみてきた〈明暗〉や〈動静〉のケースと同様に、決して恣意的なものではなく、何らかの動機づけを有するものであると考えられる。

- (22) a. \*虽然身在国外，他和郭女士热切希望祖国强大下来 (→强大起来)  
 b. \*你要是太软了，对方就会硬下来 (→硬起来)

第2節ですでにみたように、英語の文化や社会では「強いものは上に立ち、そして強いものは弱いものを支配する」という通俗的な理解がある (例 (7) 参照)。そして次の例 (23) にみられるように、この種の理解は中国の文化や社会にも認められる<sup>4</sup>。

- (23) a. 他手下有十五个科员  
 (中日辞典 (第2版) 小学館)  
 [彼の下には15名の課員がいる]  
 b. 俯首听命  
 (中日辞典 (第2版) 小学館)  
 [頭を下げて人の言いつけに従う]  
 c. 把弱者踩在脚下  
 [弱者を踏みにじる]

以上のことを踏まえ、ここでは中国語における《強は上》《弱は下》というメタファーを《支配は上》《非支配は下》のサブメタファーの1つであるとみなし、〈強弱〉と〈上下〉を結ぶものは Lakoff and Johnson 1980 : 15 で述べられている “Physical size typically correlates with physical strength, and the victor in a fight is typically on top” [身体的大きさは肉体的強さと相関し、戦いの勝者が典型的には上に立つ] という身体的経験に基づく共起性であると考えられる。注意すべきは、このことは、先の例 (20a) が表す擬人化のケースにも当てはまるという点である。次の例 (24) をみても。

- (24) 一个民族落后就要挨打，一个国家贫穷就要受欺负，这是一个千真万确的真理。  
<http://www.wadakan.com/news/newgs75.htm>  
 [どの民族でも立ち遅れるとぶたれ、どの国家でも貧しければ、いじめられる。これはきわ

めて確実な真理である。]

例 (24) が示しているように、〈弱いものは強いものに支配される〉という点において「民族」も「国家」も〈一個人〉と変わらない。(下線部参照)。

#### 4. おわりに

本稿では方向補語“～起来”“～下 (来/去)”と形容詞 (ただし一部は動詞) との共起関係に注目し、なぜ“起来”は“正向形容詞”と、“～下 (来/去)”は“負向形容詞”と共起するのか、その動機づけについて認知言語学の理論を援用しつつ考察した。これは一つのケーススタディーに過ぎないものの、考察の結果から〈明暗〉〈動静〉〈強弱〉を表す表現と“起来”、“～下 (来/去)”との共起関係は強い動機づけを有することがわかった。今後、考察の範囲をさらに広げて本稿で提案されている方法論の可能性を引き続き探っていきたい。

#### 謝辞

本稿の一部を日本中国語学会東海支部例会 (2010年11月12日於名古屋大学) にて口頭発表した際に、多くの方から貴重なご意見を頂いた。ここに記して感謝の意を表したい。言うまでもなく、本稿に関する不備はすべて筆者にある。

#### 注

1. そもそも“正向形容詞”と“負向形容詞”という表現自体が一種のメタファー表現であるといえる。
2. 韓涛 2011 では整列対応という概念を援用しながら、中国語の方向補語“来”“去”の用法を考察している。
3. ただし断っておきたいのは、“～起来”“～下 (来/去)”には、次の例 (a) (b) に示されるような時間的な用法がみられるということである。
  - a. 作为首家尝试这一举措的储蓄所，他们决心让便民的灯光亮下去。(CCL)  
 [このサービスを最初に実践した貯蓄所として、彼らは大衆の便宜をはかるといふ明かりを灯し続けようと決心した。]
  - b. 他们后来走进了松林，周围突然阴暗起来。(CCL)  
 [彼らがその後松林に入ると、周りが急に暗くなり始めた。]
 つまり、時間的な用法に限って、〈暗〉を表す表現は“起来”と〈明〉を表す表現は“下去”とそれぞれ共起することができる。
4. 仮に中国語において「強い者は下、弱い者は上」とい

う命題（通俗的な理解）が真であるのであれば、明らかに、この種の命題は例（23）や（24）に関する解釈と衝突する。従って問題の命題が真ではないとわかる。

#### 主要参考文献

韓涛 2011. 「現代中国語における方向補語“来”“去”の用法に関する一考察—主観的事態把握と「遠/近」の整列対応の観点から—」、『愛知工業大学研究報告』第47号、pp.43-47。

Lakoff, G. and M. Johnson. 1980. *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press. (渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸訳. 1986. 『レトリックと人生』東京：大修館書店)

刘月华主编 1998. 《趋向补语通释》，北京语言文化大学出版社。

鍋島弘治朗 2003. 「言語学的アラインメント試論—写像（mapping）の骨格としての整列（alignment）—」、『英文学論集』43、pp.676-679。

鍋島弘治朗 2009. 「認知言語理論におけるイメージ・スキーマと主観性—発達理論およびメタファー理論との関連から—」、『日本認知言語学会論文集』第9巻、pp.600-603。

(受理 平成25年3月19日)